

入院を考慮する症例

①呼吸状態の悪化

- ・息苦しきの訴え、呼吸数増加(25回/分以上)、喘鳴、排痰量増加
著明な咳嗽、血痰
- ・画像(XpやCT)で肺炎所見あり
- ・労作時にSpO₂低下し酸素投与が必要

②全身状態の悪化

- ・強い訴え(動けない、横になれない、ふらつく、など)
- ・食事摂取不可、飲水量低下、尿量低下
- ・頻回の嘔吐や下痢
- ・意識レベル低下(意識朦朧、応答が弱い)
- ・循環不全やショック状態

* 基礎疾患の増悪や他疾患(転倒による骨折や頭部外傷など)は、その診療科で調整

入院調整時に必要な患者情報

- 患者の個人情報(氏名、性別、生年月日、連絡先、身長と体重)
- コロナワクチン接種の回数
- 基礎疾患の有無、かかりつけ医、内服薬の内容
- 症状の経過（特に発熱の推移と全身状態）、コロナ治療薬使用の有無
- 入院依頼時のSpO₂値(安静時に数分経過して安定した値)
- 検査データ(血液検査、画像所見など)
- 入院が必要と判断される臨床的根拠
- 高齢者は要介護度(介護認定の有無)
- ADLや認知の有無(移動手段、食事内容と方法、排泄、入浴など)
- 高齢者であれば挿管などの延命治療の有無(家族の意向と主治医の方針)